

となつていくものと考えます。結婚対策・婚活支援は、本町における人口減少・少子化対策の最重要課題と考え、この度、結婚から子育てまでの切れ目のない支援を一元的に推進できるように教育委員会の体制を強化します。支援団体の皆様との緊密な連携を図り、充実した取組を進めます。

次に子育て支援についてです。昨年4月より設置した病児保育施設「ほっとすてい」では、利用者の方からお礼のお便りをいただくなど好評を得ています。引き続き事業の周知を行いながら、登録者の増加や、医療機関などの連携をはかり、仕事と子育ての両立



病児保育施設「ほっとすてい」

に向けた保育環境確保に努めます。また、子育て支援施策の情報が簡単に入手できるように、情報発信サイトの周知を進めるとともに、掲載内容の充実にも努め、子育て世代の交流の場を提供するなどの支援に取り組みます。

近年、就学時に何らかの支援が必要な児童が増加傾向にある状況を踏まえ、対象児童への対策が必要となっております。5歳児相談などの保護者支援を行うと共に、保育士研修を行うなど、就学前児童の健全な発達につなげる取組を進めます。

平成30年度は、子ども・子育て支援事業計画の中間評価を踏まえながら、子育て世代のニーズに応えられるよう、子育て支援を一層充実します。

―医療・福祉政策

奥出雲病院は本町の中核病院として、町民誰もが健康で安心して暮らし、子育てができる生活環境づくりに大切な医療の提供を行っており、町内で唯一の入院治療のできる病院です。しかし、常勤医師の状況などから、昨年4月より病床を158床から140床に変更したところです。医師の確保は病院運営に大きく影響するため

最重要課題として取り組んでいるところです。

また、新聞などで報じられているとおり、日本全体の人口減少や人口構造の変化などに伴い、国は医療、介護、福祉分野の改革を打ち出し、将来に備えようとしています。こうした状況の中で将来の町づくりに欠くことの出来ない医療の維持に、奥出雲病院の存在はとても重要であると認識し、引き続き安定的な運営に努めます。

次に福祉施策についてです。「支え合い、助け合うまちづくり」を目指し、福祉施策を継続実施します。

また、高齢化が進行する中、「地域共生社会」の実現に向け、民生児童委員や社会福祉協議会など関係機関と連携をはかり、包括的な相談支援体制づくりを進めます。

平成30年度から新たに「雲南地域第7期介護保険計画」が実施されます。この計画は、いわゆる団塊の世代が、75歳以上となる2025年の地域の状況を見据えた介護サービスの確保、医療・介護連携、介護予防の取り組みを定めたものです。今後も雲南広域連合との連携を密にして、住みなれた地域で自分らしい生活がとれるような地域包括ケアシステムの構築

みます。

横田高校の魅力化についても引き続き、生徒の海外派遣への支援、統括プロデューサーの配置、学びの場の確保などを行い、魅力ある学校づくりを進めます。

そして、2020年に実施される学習指導要領改訂の目玉である小学校の英語教育を本町では先行して実施し、子ども達に必要な力

がつけられるよう支援します。平成29年度に計画していた、三成小学校の施設整備については、改めて平成30年度から設計業務に着手しますが、国においては、「思考力や社会性などを育むには、多様な考えに触れ、切磋琢磨できる一定の集団性が必要である」と指摘していること、先般、教育委員会で行った保護者アンケートの結果、また、今後も引き続き少子化傾向にあること、将来的には、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」への移行も視野に入れるべき段階となつてきていることから、改築にあたっては、20年、30年先までを見通し、仁多中学校敷地内への移転についても、保護者の皆様はもとより、町民の皆様とも一緒に

なつて検討したいと考えます。このほか、仁多中武道館屋根・吊り天井改修や、道路拡張に伴う

横田小学校プール移転を行うための設計業務に着手します。

―消防・防災対策

昨年は、九州北部豪雨災害などにより多くの人命や貴重な財産が失われました。本町でも、大雨による公共土木・農林業災害のほか建物火災が2件発生しました。

引き続き、町民の生命財産を守るため、耐震性貯水槽の整備、消防車両の更新などを計画的に行うほか、脅威が増している北朝鮮のミサイル発射や緊急かつ大規模な災害などの確に対応するため、全国瞬時警報システム（Jアラート）の更新を行います。

また、今年7月に雲南市で開催される県消防操法大会には、鳥上分団が「小型ポンプの部」に、阿井分団が「ポンプ車の部」に出場することが決定しています。団員の皆様には、大会での上位入賞を目指し、訓練に精励いただきますようお願いいたします。

そのほか、昨年11月、安部消防団長に対し、消防団組織の再編及び消防団活動の見直しについて諮問したところです。

現在、消防団において、鋭意、検討いただいているところであり、8月末を目途に答申を受け、可能

な取組から進めたいと考えます。

―スポーツ文化振興

本年8月に、第48回全日本中学生ホッケー選手権大会が4日間の日程で、三成公園ホッケー場をメイン会場として開催されます。全国から、男女48チーム、約720名の選手が来町し、熱戦が展開されますので、町あげて盛り上げていきたいと考えます。

また、2年後に迫った東京オリピック・パラリンピックの事前キャンプについて、昨年12月に内閣府の「ホストタウン」に登録されました。インドホッケーチームの事前キャンプが実現するよう、更なる誘致活動を推進します。これに併せて、大学のホッケー部などが本町で合宿する場合の助成制度を、平成30年度から実施するよう準備を進めます。より多くの方々に本町でスポーツ合宿を行っていただき、地域活性化につなげます。

文化振興については、昨年11月に小学校のたたら体験学習活動が、博報児童教育振興会が実施する博報児童最高の栄誉である文部科学大臣賞を受賞しました。これは、学校と行政、そして公民館が一体となつて、きめ細かなふるさと学習

の推進に取り組めます。また、町の介護を支える重要な施設である奥出雲福祉センターや介護老人保健施設は、昭和42年に建設された旧仁多病院の建物を使用しており、老朽化も進んでいることから、今後の施設の改修について議論を進めます。

―国民健康保険事業

本年1月1日現在の本町の国保加入世帯の割合は、36・6%、被保険者は21・4%となっております。国保の財政運営基盤が不安定であるという課題を解決していくため、平成30年度からは、国保の運営主体を都道府県とする、新しい国保制度がスタートし、円滑な移行を進めます。

―教育の充実

平成30年度、新たに町教育魅力化協議会（仮称）を設置し、町全体で教育の魅力化を推進します。教育の魅力化にあたっては、未来を切り拓く力を持った奥出雲町の将来を担う子ども像を、幼児園、小・中学校、高校、家庭、地域と共有し、学力の向上はもとより、ふるさと教育、キャリア教育を通じて、奥出雲町らしい教育に取り組

を推進してきた成果であり、今後の地域拠点施設として、公民館の果たす役割は益々重要となるものと考えています。これまで推進してきた奥出雲町文化協会をはじめ、各公民館などで活動するサークルの支援や人材育成など社会教育の推進に努めます。



たたら体験学習

さらに、本町の「たたら製鉄」をはじめとする文化遺産や歴史文化に対し、年々、多方面から強い関心が寄せられるようになりまし。これからも、たたら製鉄の価値を着実に明らかにし、「本物のたたら製鉄は奥出雲町にある」ということを、積極的に情報発信を行います。